

### 編輯室の内外

第七十六帝國議會は翼賛議會として諸案はすら〜と協賛せらるると思はれたが存外に低氣壓が去來した、其の中心は矢張翼賛會問題であつた、翼賛會の運動は萬民輔翼の行動を促進獎勵する運動で其の根幹をなすものは下情上達、上意下達といふに在ると説明せられて居る、此根幹は憲法上から見ると議會が其機關であるから議會に現はれた旋風光景はどういふものか、管子曰く民は別つて之を聽けば則ち愚、合して之を聽けば則ち聖、是を以て明君は人心に順ずと他山の石とすべきか、東亞共榮圈確立の交通運輸體制問題を始め應急防空對策、食糧増産補助問題、交通窒息狀態打開策、金増産策、英米錯覺是正方策、舊體制からの議會人の覺醒、農地問題、翼賛會性能の明徴總動員法の認識普及、石炭増産強調方策、人口問題、諸般統制の純正統一、交通機關総合的政策等々數多の重要問題が吾人の頭上へのしかつて來た、如何にして之を解決し帝國の進運に即應し行くべきか必死の勇と斷とを要請せらるゝのではなからうか。

海南島黃楊山で飛行機事故の爲殉職した故海軍大將正二位勳一等功五級男爵大角岑生、故海軍中將從四位勳二等須賀彦次郎、故海軍大佐正五位勳五等角田隆雄、故海軍大佐正五位勳四等白濱榮一、故海軍主計大

佐正五位勳四等立見忠五郎、故海軍少佐從六位松田英夫、故海軍軍屬黒澤寅雄、故海軍軍屬高岡眞治及故海軍軍屬稻見次郎十氏の合同海軍葬は海軍大將永野修身氏海軍少将儀委員長となり昨二月二十日東京築地本願寺別院で嚴かに取行はれた噫。

我國の兵役年齢は二十歳であるが各國のそれを見るとベルギー及びポルトガルは十七歳、パラグアイは十八歳、ソヴエツトロシア、オランダ、スペイン、ウルグアイ、ボリビヤは十九歳である。タイ、メキシコ、アルゼンチン、チリ、ペリ、スイス、スウェーデン、デンマーク、ノールウェイ、ハンガリー、ブルガリヤ、ドイツ、フランス、イタリーは日本と同じく二十歳である、世界的軍備擴充、戰時體制強化の趨勢は、二十歳採用の國をして兵役年齢低下を餘儀せしめらるゝに至るではなからうか。

太平洋上濤將が高からんとするの秋、我駐米大使野村海軍大將は新聞記者達の日本の南方進出に關する問に對して太平洋上でも日米兩國が戦はねばならぬの問題もなはい、米國の方から戰爭を起さぬ限り日本からは起さぬと斷言す、英のイーデン外相やルーズヴェルト大統領、ハル長官ウエルズ次官達の耳にはどう響いたか。

懸案の日ソ通商交渉は建川駐ソ大使とモトフ外務人民委員との間に開始することに合意成立したと報せらる、順調に進まんとを熱望する。

日滿支を通ずる綜合的交通政策の樹立は吾人の夙に唱道したる所であるが企畫院陸海軍鐵道逡信各省で研究審議の處今回愈々其の交通政策要綱成り大東亞共榮圈の確立に一歩を踏み出したとのことである、さも

松岡外相が重光駐英大使をして英のイーデン外相に交際せしめたメツセーヂが平和示唆を與へたるものとか然らざるものとかで漸く問題化せんとする、要心要心。

新體制の私案上層部より漏洩せしとか否とか問題となる、またしても

(CIVILIAN、洗)

定價一部 五十錢  
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麹町區霞關一丁目内務省内  
社 團 道 路 改 良 會  
電話銀座(57)〇四二七

發行所 東京市世田谷區代田壺丁目七八〇  
編輯者 小 島 效

印刷所 常馨印刷所  
印刷者 奈良直一

東京市小石川區諏訪町五六